

特別養護老人ホームの ユニットケアとは

日赤鶯鳴荘機関誌「うぐいすの声」折込資料



No. 4

★（ご家族） 日赤鶯鳴荘では、先般、家族会代表などで構成する「施設整備懇話会」を開催したとお聞きしましたが、どのようなことが説明されたのでしょうか？

◆（園長） はい。去る1月29日（水）に「第1回特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘施設整備懇話会」を開催しました。この懇話会では、私の方から日赤鶯鳴荘の移転新築計画の概要のほか、整備スケジュールなどについて説明を行い、委員の皆様と意見交換を行わせていただきました。では、その内容の一部を搔い摘んでお話しします。

第1回「日赤鶯鳴荘施設整備懇話会」開催について

設置目的

日本赤十字社岩手県支部は、特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘の施設整備や運営等について、地域住民や関係機関の皆様のご協力とご理解をいただくために「特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘施設整備懇話会」を設置しました。

協議事項

この懇話会では、施設整備や施設運営などについて協議を行い、ここで出されたご意見等は岩手県支部が設置する建設委員会に報告することとなっています。

構成員

懇話会の委員は、県や雫石町の職員と町議会議員のほか、地元の医療機関、社会福祉協議会、老人クラブ連合会、地区自治会、地区公民館、日赤奉仕団等の関係機関・団体、民生委員、家族会の代表など14名で構成されています。

座長選出

この会の座長に盛岡広域振興局岡村锐次保健福祉環境部長が選出され、岡村座長が雫石町米澤誠福祉課長を座長代理に指名しました。

ご質問ご意見



県内各地から利用されると思いますが、町民を優先して利用させることができますか？

【園長】広域型施設ということからどなたでも利用可能です。しかし現在の入所者の状態を見ると、その8割が地元住民となっております。

特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘の移転新築計画の概要

1. 施設整備の背景について

開設以来 34 年が経ち施設設備の老朽・劣化が著しく、利用者の安心・安全に重大な影響を及ぼしかねない状態にあること。

戦後生まれの団塊世代が介護サービスを利用する時代が近々到来する状況の中で、高齢者の尊厳を守る利用者本位の質の高い小規模ケア（ユニットケア）が求められていること。

先の東日本大震災の経験や教訓から、日本赤十字社の自社ブランドを活かした施設づくりや事業運営に大きな期待が寄せられていること。

2. 建設予定地について

現在地より約 4 百m 北東の南畠小学校東側、県道 172 号線沿の零石町有地 1 万 5 千m² を無償貸与していただく予定であること。

3. 建築概要について

現時点の建築概要は次のとおりであること。

・敷地面積 15,000 m² ・建設面積 2,000 m² ・延床面積 6,000 m² ・構造 鉄筋コンクリート造 ・規模 地上 3 階建て

4. 運営概要について

日本赤十字社が設置し、日本赤十字社岩手県支部が運営する事業内容は次のとおりであること。なお、開設は平成 29 年 4 月 1 日を予定。

- ・ユニット型特別養護老人ホーム（全室個室 80 床）
- ・ユニット型短期入所生活介護事業（全室個室 20 床、14 床増床）
- ・通所介護事業（デイサービス）（定員 20 人、自前施設）
- ・指定居宅介護事業所
- ・在宅介護支援センター

5. 職員の配置計画について

移転新築後の施設では、約 100 名の職員を配置する計画であること。特に、介護福祉士や介護職員（ヘルパーや初任者研修修了者）は特別養護老人ホームでは 35 名から 58 名に増員する必要があること。このため職員確保計画を定めて職員の確保、養成に努める必要があること。

6. 日赤鶯鳴荘デイサービスセンター（仮称）について

現在指定管理する「零石町デイサービスセンター」は平成 29 年 3 月末で指定管理を廃止し、自前の「日赤鶯鳴荘デイサービスセンター（仮称）」を開設する計画であること。

7. スケジュールについて

- ・平成 26 年度：基本・実施設計
- ・平成 27~28 年度：建築工事
- ・平成 29 年 4 月：開所

低所得者への対応はどのように考えていますか？



【園長】ユニットケアの場合、ホテルコストなど利用料が高くなる人もいます。その中で低所得者については、国が制度化している公的な助成制度を活用して誰でも施設利用できるようにしたいと考えています。

定員 80 床にした理由や背景はなんですか？



【園長】現在の特養の定員が 80 床であるとのほか、地元零石町の将来推計人口から利用者推計を行った結果、2035 年までは利用率 100 % を見込めることが背景にあります。

また、短期入所を 6 床から 20 床に増床することで、冠婚葬祭や農繁期などの利用を含め、むしろ使い勝手の良い特養を考えた結果であります。